

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子巣鴨駅前保育園
施設所在地	豊島区巣鴨1-14-8中野ビル2・3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

つくる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

昨年度の3歳児クラスが枝豆を育てていたことを覚えていた子どもから「枝豆を育ててみたい」という話があり、その旨をすぐに栄養士に相談し、枝豆の栽培を行うことが決まった。職員同士の風通しの良さのおかげで、子どもたちの興味関心が逸れないうちに栽培を始めることができた。  
生きていくうえで最も大切な「食べる」ことに興味があまりないように見える子が多い。また、苦手な食材もたくさんあるので他のクラスよりも残食が多く出てしまう。『つくる』（自分たちで食材を育て、自分たちで作って食べる）ことを経験することで、食材に興味や関心を持ち、食べることに意欲を持てるようにしていく。

## 2. 活動スケジュール

### ①枝豆の栽培

昨年度の3歳児クラスが枝豆を育てていたことを覚えていた子どもから「枝豆を育ててみたい」という話があり、枝豆の栽培が始まった

・4月25日 枝豆苗植え付け テラスにプランターを2台設置、そこに腐葉土を入れ、子どもたちがシャベルを使って枝豆の苗を植え付けた。

毎日交代でじょうろを使って水やり 子どもから「枝豆も喉乾いてるかな？たくさんお水飲んでね」「葉っぱが大きくなってきた」などの言葉が聞かれた

### ②枝豆の収穫

・6月18日 枝豆収穫 観察 ハサミを使いひとりひとり枝豆の収穫を行った。 切り口の香りを嗅いで「臭い」「葉っぱの匂いがする」、枝豆の鞘に触れて「チクチクするね」「固い」など、観察して発見したことを友達同士や保育者に報告する姿があった

収穫した枝豆は袋に入れ、調理室へ持って行った。

・6月19日 給食時に枝豆を喫食

・6月19日 枝に枝豆がまだ残っていたので、水やりを継続 1回目の時と同様に、じょうろを使い毎日交代で水やりを行った

・7月22日 枝豆収穫2回目 1回目ほどの数はなかったが、子ども全員がハサミを使って枝豆の収穫を行うことができた。

・7月23日 給食時に枝豆を喫食

2回目の枝豆収穫時に少し茶色くなっている鞘を見つけた子どもが「これも食べられるの？」と聞いてきたことから、このまま栽培を継続してみようと思った。

### ③大豆の収穫

・7月23日 大豆収穫に向け栽培継続 枝豆の時と同様に、じょうろを使い毎日交代で水やりを行った。

葉や莖も少しずつ茶色くなっていく様子を見て「枯れちゃったのかも」と心配する姿が見られた。

・9月1日 大豆収穫

枝豆の収穫の時のように、ハサミを使ってひとりひとり大豆の収穫を行った。

鞘から出した豆が枝豆とは色も感触も違っていることから「枯れちゃった」と言う子どもがいたが、更に観察を続けると「豆まきのお豆みたいだね」という意見が出たので、豆まきには何の豆を鬼に投げるのかを調べ収穫した豆と比較し「これは大豆だ」と子どもが気付いた。「枝豆は大豆なの？」と不思議がる子もいた。そこから、大豆から作れる食べ物ということで『きなこ』のクッキングが決まった。

・9月2日 食育 きなこ作り

自分たちで作ったきなこを「美味しい」「本当にきなこだ！」と驚きながら食べていた姿が印象的だった。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

購入品 枝豆の苗・苗を植えるためのプランター2台・腐葉土

苗の植え付け時にはシャベルを使用し、数人ずつで水やりができるよう複数のじょうろを購入。

環境の設定 廊下のガラス窓からも枝豆の成長を観察できるよう、プランター2台の設置場所を工夫した。

### 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・昨年度の3歳児クラスで枝豆栽培を行っていたことを子どもたちが覚えており、子どもたちから「枝豆を育ててみたい」という意見があがった。そこから子ども同士で「枝豆ってどうやって生ってるんだろう?」「花は何色かな?」等の活発なやり取りが見られた。

・4月25日 テラスに設置したプランターに枝豆の苗を子どもたちの手で植え付けた。腐葉土を見たり触ったりしたことのない子は公園の砂場の砂との違いに驚く子どももいた。苗を見た子どもたちは、葉の形や根この形状を見て、子ども同士で気付いたことを話し合ったり、保育者に伝えて来ていた。

・収穫まで交代で水やりを行う。子どもたちは、水やりに来る度に大きくなっている枝豆の苗に驚き、花の色や形、葉の大きさなどを観察、小さな枝豆が出来ていた時は興奮して保育者に報告してくれた。保育室に戻ると友だちにも報告、他児も自分が水やりに行けることを心待ちにするようになった。

・6月18日 枝豆の収穫 前日に「明日収穫をする」と伝えたと、当日の朝は「収穫するんだよね」と笑顔で登園してきており、収穫をとて楽しみにしていた様子が見られた。収穫はひとりずつハサミを使って収穫を行った。その際、収穫した枝豆の匂いを嗅いだり固さを確かめたり、触った時の感触を観察した。子どもたちでお互いに気付いたことを伝え合ったり、保育者に伝えてくる姿があった。

・6月19日 給食での枝豆の喫食 子どもたちは自分たちで育てた枝豆を食べることを心待ちにしており、普段枝豆を食べない子ども、この日は自分から「食べてみるね」と口に運んでおり、美味しいと喜んでいた。

まだ枝には実が残っていたので、2回目の収穫に向けて引き続き水やりを行うことになった。

・7月22日～23日 2回目の枝豆収穫と喫食 1回目ほどの量は収穫できなかったが、全員交代でひとりずつ収穫をすることができた。2回目の収穫で子どもから「枝に残っている枝豆をそのままにしたらどうなるの?」と言う疑問が出てきた。子ども同士で様々な意見が出てきており、保育者を交えて子どもと相談した結果「このまま育ててみよう」ということになった。

・7月23日～ 子どもたちが交代で水やり 夏の暑い時期だったこともあり「枝豆もお水飲みたかったね」と話しかけながら水やりをする姿があり、愛着を持って栽培していることが分かった。少しずつ色が変わっていく枝豆の様子を観察し、葉が枯れてきたことを見て「枝豆枯れちゃったの?」と心配していた。

・9月1日 大豆収穫 ひとりずつハサミを使って収穫。枝豆の時と違う手触りや硬さに不安な表情を浮かべていた。鞘の中を見てもうすだいたい色の豆が出てきたのを見て「鬼に投げる豆と似てる」という意見が出てきた。保育室に戻り「鬼に投げる豆」について保育者と一緒にタブレットを使用して調べると、それが『大豆』だとわかった。『大豆』について調べると『枝豆』と繋がったことで、今回収穫した物が『大豆』だとわかった。すると子どもたちから「枝豆と大豆は同じなの!」と驚きの声があがった。

・9月2日 食育 きなこ作り 子どもたちは大豆の乾煎り時の香りや、フードプロセッサーの中で大豆が次第に細かくなっていく様子に歓声をあげていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・昨年度の3歳児クラスで枝豆栽培を行っていたことを子どもたちが覚えており、子どもたちから「枝豆を育ててみたい」という意見があがった。そこから子ども同士で「枝豆ってどうやって生ってるんだろう?」「花は何色かな?」等の活発なやり取りが見られた。

・テラスに設置したプランターに枝豆の苗を子どもたちの手で植え付けた時には、腐葉土を見たり触ったりすることが初めての子が多く、公園の砂場の砂との違いに驚く子どももいた。苗を見た子どもたちは、葉の形や根っこの形状を見て、子ども同士で気付いたことを話し合ったり、保育者に伝えて来ていた。

・収穫まで交代で水やりを行う。子どもたちは、水やりに来る度に大きくなっている枝豆の苗に驚き、花の色や形、葉の大きさなどを観察していた。小さな枝豆が出来ていた時は興奮して保育者に報告をしてくれた。保育室に戻ると友だちにも報告、他児も自分が水やりに行けることを心待ちにするようになった。

・枝豆の収穫前日に「明日収穫をする」と伝えると、当日の朝は「収穫するんだよね」と笑顔で登園してきており、収穫をとても楽しみにしていた様子が見られた。収穫はひとりずつハサミを使って収穫を行った。その際、収穫した枝豆の匂いを嗅いだり固さを確かめたり、触った時の感触を観察した。子どもたちでお互いに気付いたことを伝え合ったり、保育者に伝えてくる姿があった。

・給食での枝豆の喫食 子どもたちは自分たちで育てた枝豆を食べることを心待ちにしていた。普段枝豆が出て「嫌だから」と食べない子ども、この日は自分から「食べてみるね」と口に運んでおり、美味しいと喜んでた。

まだ枝には実が残っていたので、2回目の収穫に向けて引き続き水やりを行うことになった。

・2回目の枝豆収穫は1回目ほどの量は収穫できなかったが、全員交代でひとりずつ収穫をすることができた。2回目の収穫で子どもから「枝に残っている茶色の枝豆をそのままにしたらどうなるの?」という疑問が出てきた。子ども同士で様々な意見が出てきており、保育者を交えて子どもと相談した結果「このまま育てみよう」ということになった。

・7月23日から子どもたちが交代で水やり 夏の暑い時期だったこともあり「枝豆もお水飲みたかったね」と話しかけながら水やりをする姿があり、愛着を持って栽培していることが分かった。少しずつ色が変わっていく枝豆の様子を観察し、葉が枯れてきたことを見て「枝豆枯れちゃったの?」と心配していた。

・大豆の収穫もひとりずつハサミを使って収穫。枝豆の時と違う手触りや硬さに不安な表情を浮かべていた。鞘の中を見てもと薄茶色の豆が出てきたのを見て「鬼に投げる豆と似てる」という意見が出てきた。保育室に戻り「鬼に投げる豆」について保育者と一緒にタブレットを使用して調べると、それが『大豆』だとわかった。『大豆』について調べると『枝豆』と繋がったことで、今回収穫した物が『大豆』だとわかった。すると子どもたちから「枝豆と大豆は同じなの!」と驚きの声があがった。大豆で作れる物で何を作るかを相談し、きなこを作ることになった。

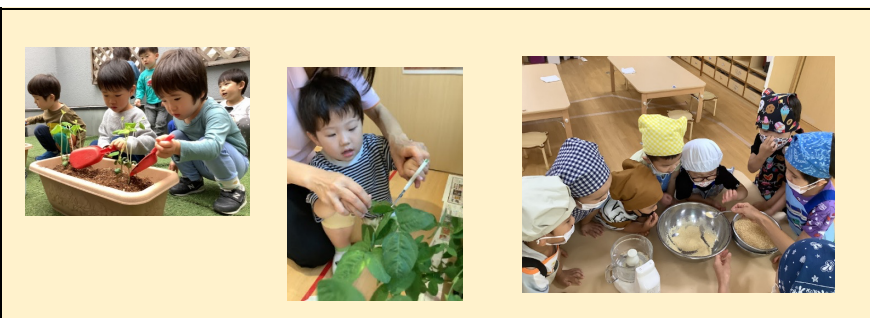
・きなこ作りでは、子どもたちは大豆の乾煎り時の香りや、フードプロセッサーの中で大豆が次第に細くなっていく様子に歓声をあげていた。

・枝豆が苦手だった子どもが、自分たちで育てた枝豆を自ら「食べてみる」と食べたり、食べながら収穫した枝豆について話し合っていた。

・きなこ作りでは、大豆を炒っている時の香りについて子ども同士で話し合う姿が見られ、フードプロセッサーにかけた炒った大豆が細くなっていく様子も興味深く観察していた。

・きなこはおやつ時に蒸しパンと一緒に食べたが、その時には大豆が他にどんな食品に変わっていったのかに興味を持っていた。

・きなこ作り後には、お味噌汁が給食で出た時に、保育者がお味噌も大豆で出来ていることを伝え、それまでお味噌汁が好きではなく残していた子どもが「食べてみる」と口にすることができていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・それまで苦手で口にすることを嫌がっていた食材であっても、子ども自らが「食べてみる」と実際に食べている姿を見て、自分の手を動かして「つくる」ことの大切さを知ることができた。

・様々な食材を自分で育てることで、他の食材がどのように生っているのかを知ろうとすることが増えている。タブレットや図鑑等を使って保育者と子どもと一緒に調べることで、知ることの楽しさも感じている様子がある。

・今後も様々な食材の栽培やクッキングを体験することで、[つくる(栽培)] [食べる]ことへの意欲を育てていきたい。